

当院の消化器内視鏡検査・治療の方針について

消化器内視鏡診療は、診断、治療、検診など幅広い目的で行われています。今般の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響で、本来は内視鏡を行わなければならない人たちに、十分に行われていないのが現状です。このままでは病気の早期発見ができない、診断が遅れて治療方針や生命に影響があるなど、皆さんに不利益が出かねない状況です。これから緊急内視鏡以外の、通常の内視鏡検査を行っていくにあたり、当院の方針をご説明します。

ウイルスと感染について

1. 新型コロナウイルスの感染経路は飛沫感染、接触感染が基本です。
2. 院内すべての部署で、感染拡大予防、院内発生防止、職員への感染暴露予防の対策を行っています。
3. 消化器内視鏡の施行にあたっては咳嗽を誘発する場合もあり、COVID-19 の患者からエアロゾルによる医療従事者への暴露の可能性がありますので、それらに対応をします。

感染予防について

1. 嶋田病院では館内に入るすべての人に問診や検温を行い、マスクの着用をいただいています。
2. 内視鏡センターで、内視鏡検査を受けるにあたっての問診や検温を行わせていただいています。
3. 病院の取り決めに従い、内視鏡受付、待合、トイレなどの環境清掃・消毒をしています。
4. 待合室は、お互いに十分な距離が取れるようにイスを配置し、換気をしています。
5. 内視鏡検査室は、症例ごとに環境清掃・消毒をして、換気を行っています。
6. スプレー式の咽頭麻酔は、せき込んだりする可能性がありますので使用しません。
7. 内視鏡の本体は、ガイドラインに準拠して洗浄消毒しており、新型コロナウイルスはもちろん他の感染症の媒介をすることはありません。
8. スタッフは、マスク、フェイスシールド（またはゴーグル）・手袋・ガウンの個人防護具を着用しています。
9. 検査・治療終了後の手指洗浄（肘までの手洗い）、手指消毒を行っています。

リスク評価

- ① 受診時、検査前の問診で COVID-19 感染の可能性について評価します。
- ② 感染の可能性が低いと評価された方の中にも、非流行期や蔓延期に関わらず無症状感染者が一定数含まれる可能性があることを踏まえ、感染標準予防策を行い内視鏡診療を実施します。
- ③ 感染の可能性が否定できないとされた方は、緊急性と必要性を勘案し施行を検討するとともに、消化器以外の他の疾患での診察をお勧めすることがあります。